

努力 根性 忍耐ではなく・・・

今年はコロナの影響で、7月になるというのに新学期がはじまったばかりのような（ようなではなく、本当にはじまったばかりです）状況で、例年ならここまでできていて当たり前という焦りを感じて悩んでいる方が子どもから大人まで結構な人数いらっしゃるようです。世界的な規模でいつもとは違うことが起きているのですもの。焦りや違和感を感じるのは当たり前です。いつも通りいかないときこそ何か新しいものが考え出されるチャンスですし、これまでの人生、滞りなく歩んでこられたことに気づいて感謝の気持ちから進まれてはいかがでしょうか。

先に休んでしまったから夏休みは短いらしいと子どもたちからききました。  
夏休み返上というと思いますことがあります。

22歳の夏、横浜市の小学校教員採用試験を受験しました。今はどのような内容になっているのでしょうか。当時、試験には実技もいくつかあり、確か、ピアノを伴奏しながら歌う、自分の手をデッサンする、プールで25メートル泳ぐ、そして跳び箱が試験内容でした。跳び箱なんて最後にとんだのはいつだったかしら・・・これは、練習しないと！ということで、同じく小学校教員をめざしていたYちゃんと大学内の体育科のT先生に練習をみていただけるようお願いしました。わたしもYちゃんも何というかおっとりタイプ。6段の跳び箱を見ただけで「無理でしょ。ともかく一生懸命努力している姿を見せれば、きっと大丈夫。」と、早くも逃げ腰です。それでもT先生は顔色一つ変えずに「絶対とべるわよ」と当たり前のように準備体操からご指導くださいました。

結果、20分後にはわたしもYちゃんも8段の跳び箱をバンバンとべるようになっていました。何が起きたかという、準備体操から必要な動きだけを無駄なく行い、T先生は跳び箱のどこに手をつけばいいのか、ジャンプをしてお尻が上がる体勢がとれることが重要など、成果を出すために必要なことを分析して順序立てて練習すればだれでもできるようになるということを教えてくださいました。これは、絵でも楽器でも走るでもなんでもそうなのです。良き指導者に恵まれればかなりのところまではできるようになります。

努力、根性、忍耐で泣きながら学習する時代に幼少期を過ごした世代（もちろん私も）からみると羨ましい気もしますが、子どもたちに何か教えるときにどう分析してわかりやすく伝えられるか指導者側の力量の問題なのだと思ひ跳び箱を通してT先生から教えていただきました。